第5節　光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査

1．教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う予備発掘調査

調査地区　光構内小学校・中学校

調査面積　約19.4㎡（A～B・D・E調査区約4㎡
C調査区約3.4㎡）

調査期間　平成23年9月12～18日

調査担当　田畑直彦

調査結果

（1）調査の経緯（図27・28、写真42～43）

教育学部附属光小・中学校で公共下水道接続工事が計画された。工事は小・中学校の校舎周囲・道路に排水管を新設し、正門前まで布設されている下水道本管に接続するものである。平成23年度上半期段階で工事は決定していなかったが、工事掘削範囲が校庭を除く小・中学校の敷地全域に及ぶことから、事前に埋蔵文化財の分布状況を把握する必要が生じた。このため、平成22年度第11回埋蔵文化財資料館専門委員会（3月29日開催）で審議が行われた結果、事前に予備発掘調査を実施することになった。

調査は既往の調査[註1]により埋蔵文化財が存在する可能性が高い箇所（附属小学校体育館～附属小学校玄関～附属中学校玄関～附属中学校体育館）は対象外とし、埋蔵文化財の遺存状況が不明な箇所にA～Eの調査区を設定して実施した。

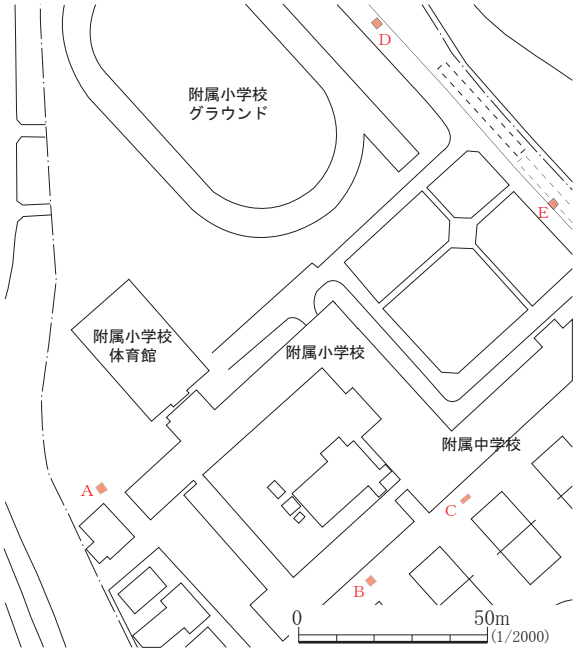


図 27　調査区位置図

写真 42　A 調査区調査前全景（北東から）

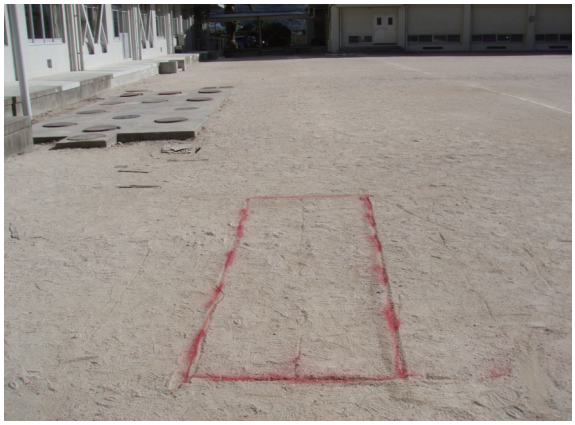


写真 43　C 調査区調査前全景（北東から）

（2）層序・遺構（図29、写真44～49）

A調査区

A調査区の層序は①表土（層厚13～22㎝）、②造成土（層厚25～47㎝）、③明黄褐色（2.5Y7/6、2.5Y 4/2）細砂（層厚35～53㎝）、④灰白色（2.5Y7/1）細砂（層厚6㎝以上）である。造成土が厚いほか、攪乱が著しい。③明黄褐色シルトは古墳時代の遺構面形成層と考えられるが遺構は検出していない。

B調査区

B調査区の層序は①表土（層厚4～8㎝）、②造成土（層厚30～54㎝）、③浅黄色（2.5Y7/4）細砂（層厚

図 28　調査区詳細図

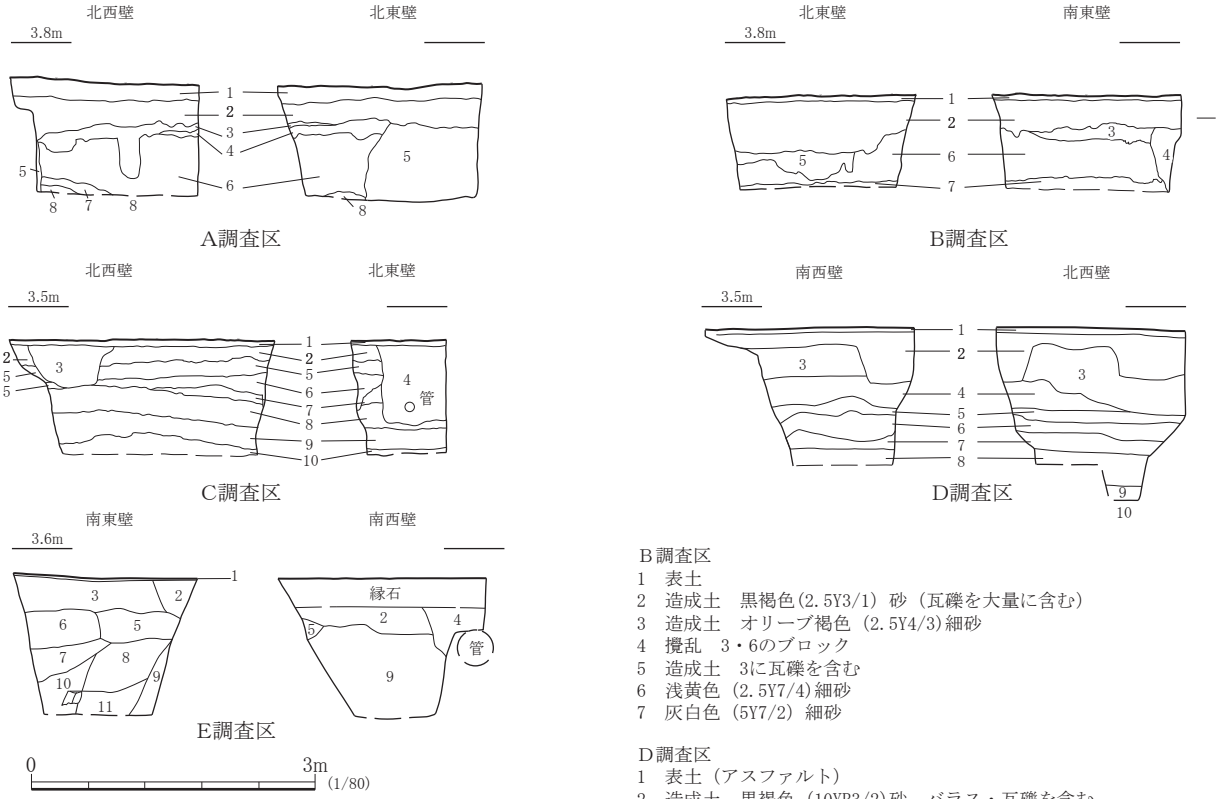
3～55cm）、④灰白色（5Y7/2）細砂（層厚15cm以上）である。③浅黄色細砂は古墳時代の遺構面形成層と考えられるが、A調査区同様、攪乱により削平を受けており、遺構は検出していない。

C調査区

C調査区の層序は①表土（層厚5～8cm）、②造成土（層厚10～18cm）、③暗灰黄色（2.5Y5/2、2.5Y4/2）粗砂…近代遺構面形成層か（層厚25～49cm）、④灰オリーブ色（5Y4/2）礫・オリーブ褐色（5Y4/2、2.5Y4/3）礫、粗砂…古墳時代以降の堆積層か（層厚72cm以上）である。遺構は検出していない。

D調査区

D調査区の層序は①表土（アスファルト：層厚5cm）、②造成土（層厚13～55cm）、③淡黄色（2.5Y8/4）等細砂・粗砂・礫…近世～近代の堆積層（層厚128cm以上）である。遺構は検出していない。③の近世～近代の堆積層は波浪による堆積層と考えられる。壁面がきわめて脆弱であったため、詳しく調査を行う



A調査区
1　表土
2　造成土　灰色（5Y4/1）砂（瓦礫含む）
3　造成土
　灰オリーブ色（5Y4/2）細砂・灰白色（7.5Y7/2）細砂のブロック
4　造成土　灰オリーブ色（5Y4/2）細砂
5　攪乱　4・7・8のブロック
6　明黄褐色（2.5Y7/6）細砂
7　明黄褐色（2.5Y4/2）細砂
8　灰白色（2.5Y7/1）細砂

C調査区
1　表土
2　造成土　にぶい黄褐色（2.5Y6/3）粗砂　瓦礫含む
3　造成土　2・5のブロック
4　管埋土　2・5・6～8のブロック
5　近代遺構面形成層か　暗灰黄色（2.5Y5/2）粗砂
6　近代遺構面形成層か　暗灰黄色（2.5Y4/2）粗砂
7　灰オリーブ色（5Y4/2）礫　0.1～2cm大礫主体
8　オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫　2～3cm大礫主体
9　オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫　1cm大礫主体
10　オリーブ褐色（2.5Y4/3）粗砂　0.1～1cm大礫を少量含む

B調査区
1　表土
2　造成土　黒褐色（2.5Y3/1）砂（瓦礫を大量に含む）
3　造成土　オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂
4　攪乱　3・6のブロック
5　造成土　3に瓦礫を含む
6　浅黄色（2.5Y7/4）細砂
7　灰白色（5Y7/2）細砂

D調査区
1　表土（アスファルト）
2　造成土　黒褐色（10YR3/2）砂　バラス・瓦礫を含む
3　淡黄色（2.5Y8/4）粗砂　0.1～3cm大礫含む
4　灰色（5Y4/1）礫　0.5～3cm大礫主体
5　明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂　0.5～3cm大礫少量含む
6　4と同じ
7　浅黄色（2.5Y7/4）粗砂　0.5～3cm大礫主体
8　黄褐色（2.5Y5/3）細砂　0.5～3cm大礫少量含む
9　明黄褐色（2.5Y6/6）礫　0.5～3cm大礫主体
10　にぶい黄色（2.5Y6/4）　細砂

E調査区
1　表土
2　縁石埋土　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂　瓦礫を大量に含む
3　造成土　2と同じ　2よりしまりあり。
4　管埋土　オリーブ黒色（5Y3/2）粗砂
5　造成土　黄褐色（2.5Y5/3）粗砂
6　造成土　灰黄色（2.5Y7/2）0.1～10cm大礫・瓦礫含む
7　浅黄色（5Y7/4）粗砂　0.1～5cm大礫含む
8　オリーブ黄色（5Y6/3）粗砂　0.1～5cm大礫含む
9　灰白色（5Y7/2）細砂　粗砂、0.1～5cm大礫含む
10　黄褐色（2.5Y5/4）粗砂　0.1～5cm大礫含む・石垣裏込め？の石含む
11　浅黄色（5Y7/3）細砂　粗砂、0.1～5cm大礫含む

図 29　調査区土層断面図

ことができなかった。

E調査区

E調査区の層序は①表土（層厚3cm）、②造成土（層厚55～77cm）、③浅黄色（5Y7/4）等粗砂、細砂…近世～近代の造成土（層厚82cm以上）である。③の各層は海側に向かって傾斜しており、直径10cm以上の礫を多数含んでいた。またD調査区同様、壁面がきわめて脆弱であったため、詳しく調査を行うことができなかった。

（3）遺物（図30、写真50）

A調査区では造成土から近世～近代の陶磁器、瓦片が出土した。B調査区では造成土中から土師器片1点が出土した。C調査区では3層から土師器片、須恵器片、6層から須恵器片、7・8層から土師器片

写真44　A調査区全景（南西から）

写真45　B調査区全景（南西から）

写真46　C調査区北西壁土層断面（南から）

写真47　D調査区全景（南東から）

写真48　E調査区掘削状況（北西から）

写真49　E調査区南東壁土層断面（北東から）

が出土した。D調査区では2～6層から土師器片、須恵器片、近世～近代の陶磁器片、瓦片、貝殻が出土した。土師器、須恵器片は波浪による摩滅が著しいものが多い。E調査区では、1～4層から土師器片、須恵器片、近世～近代の陶磁器片、5～8層から土師器片が出土した。ただし、掘削中に崩落が相次ぎ、厳密に層位別の取り上げができなかったため、上下層の土器が混入している可能性がある。

1はD調査区2層出土遺物。土師器竈形土器の庇部で、一部剥離している。2～4はD調査区第6層出土遺物。2は萩焼系の碗である。外面に藁灰釉を厚く施釉する。18～19世紀。3は磁器碗（波佐見系くらわんか碗）である。外面には草花文を染付ける。4は肥前系磁器の蓋付鉢か。胴部下外面には2条の圏線間に唐草文を染付ける。18世紀。

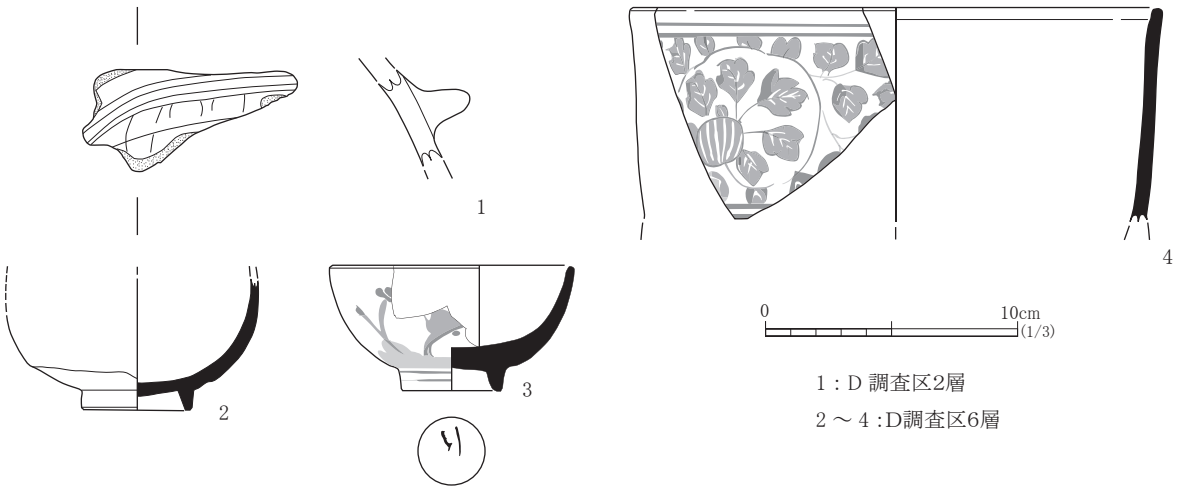


図 30 出土遺物実測図

写真 50 出土遺物

表4 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調	胎土	備考
1	D調査区 2層	土師器　竈	庇部		①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②黒褐色(2.5Y3/1)	1～3㎜の砂粒を含む	
2	D調査区 6層	陶器　碗	胴～ 底部	②3.3	素地　灰黄色(2.5Y7/2) 釉　灰白色(5Y7/1)	精緻	萩焼系
3	D調査区 6層	磁器　碗	口～ 底部	①(9.8) ②4.0 ③5.0	素地　灰白色(10Y7/1) 釉　灰白色(7.5Y8/1)	精緻	波佐見系 18C
4	D調査区 6層	磁器　蓋付鉢か	口～ 胴部	①(11.2)	素地　灰白色(7.5Y8/1) 釉　明緑灰色(7.5GY8/1)	精緻	肥前系 18C

（4） 小結

今回の予備発掘調査の結果、A・B調査区では古墳時代の遺構面形成層と考えられる土層、C調査区では古墳時代以降の堆積層及び近代の遺構面形成層と考えられる土層を検出した。一方、D・E調査区ではA～C調査区とは異なり、現地表下約150㎝まで近世～近代の土層がみられることを確認した。いずれの調査区からも遺構は検出されず、造成土出土の近世～近代の陶磁器・瓦類以外は遺物も僅少であった。

上記の調査結果について、平成23年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会（10月11日開催）で審議を行った結果、今回の調査区周辺については顕著な遺構・遺物は検出されなかったものの、掘削範囲が広範囲に及ぶことから立会調査を行うことになった。一方、本発掘調査については、詳細な工事計画が決定次第、地点を検討して実施することになった。

【註】

1）河村吉行（1992）「第3章 光構内教育学部附属光小学校運動場改修工事に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』，山口

2）横山成己（2005）「第1章 第6節教育学部附属光小学校エレベータ昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』，山口

3）田畑直彦（2013）「第1章 第6節教育学部附属光中学校校舎改修工事に伴う本発掘調査・立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』，山口

2. 教育学部附属光小学校遊具設置工事に伴う立会調査

調査地区　光構内小学校校庭北西隅

調査面積　約20㎡

調査期間　平成23年8月1日

調査担当　田畑直彦

調査結果　教育学部より、附属光小学校北西隅に遊具（木製アスレチック・ジャングルジム）設置工事が計画された。工事予定地周辺では平成11年度の上水道（給水管）改修工事に伴う試掘調査で遺物を少量含む包含層が検出されており[註1]、埋蔵文化財の遺存する可能性が考えられることから、立会調査を実施することになった。

工事は木製アスレチックの基礎6箇所（A地点　平面形約100㎝×約150㎝　掘削深度約80～90㎝）、ジャングルジムの基礎（B地点　平面形約280㎝×約280㎝　掘削深度約30㎝）で行うものである。調査の結果、A地点は攪乱が顕著であったが、部分的に現地表下45㎝～65㎝で古墳時代後期の遺構面形成層の可能性がある明黄褐色（2.5Y6/8）細砂を検出した。ただし、遺構は検出できず、排土から土師器片2点が出土するにとどまった。B地点は全て造成土の範囲内であった。

以上から、調査区周辺は攪乱が著しいものの、埋蔵文化財が残存する可能性があることから、今後も慎重な対応が必要である。

【註】

1）田畑直彦（2004）「第8章　3平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』，山口

図 31　調査区位置図

写真 51　A地点全景（南東から）

写真 52　A地点南東隅土層断面（北東から）